



6年ぶりとなるバスハイク

第五十七回ボランティア研修交流会開催

十一月十七日(日)に第五十七回ボランティア研修交流会(バスハイク)を行いました。すがすがしい秋空の中、朝八時に小倉駅前を出発し、八幡駅前を経由し、福岡県糸島市に向かいました。参加者は事務局を含め十一名でした。

すがすがしい秋空の中

一路糸島へ

今回は、新型コロナウイルスが感染症法上の5類になつてからの研修交流会(バスハイク)は初めてで六年ぶりに開催しました。

初めに糸島市の「JA糸島産直市場『伊都菜彩』」で買い物をし、お昼は活魚茶屋さうお本店で食事をし、またいちの塩製塩所「工房とったん」でまたいちの塩やプリンを買い物し、杉能舎(浜地酒造)を見学する行程でした。

往路のバスの中で山田理事長の挨拶があり、その後、車内研修を行いました。

今回の研修は、「さわやか」の名誉顧問で公益財団法人健和会 健和会京町病院の江頭眞紀子先生による『主食のおはなし』と題して話



公益財団法人健和会
健和会京町病院
医師 江頭 眞紀子氏

がありました。

研修後、恒例?の時間あてクイズで楽しみながら、伊都菜彩に到着しました。

糸島の農家が心を込めて

育てた生産物を

伊都菜彩は、糸島の農家の皆さまが心を込めて育てた生産物を、新鮮で安く消費者の皆様に届けるJA糸島直営の直売所です。

直売施設としては九州最大級で広い売り場内には、野菜や果物をはじめ、お米、糸島牛や糸島豚などの畜産物、花、鮮魚類、お惣菜、各種加工品など、毎日の食卓に必要な物が取り揃えて

います。

ボランティアさんたちは新鮮な野菜や果物などを両手がふさがるほど買い物されていました。

伊都菜彩を後にして、二見ヶ浦経由でさうお本店に向かいました。

さうお本店に向かうバスの中で、時間あてクイズの表彰を行いました。

今回は八幡駅からJA糸島産直市場伊都菜彩の駐車場に着いてバスが停車するため運転手さんが降車するため



事務局からのお知らせ

十二月二十三日に済生会八幡総合病院の移転に伴い、済生会総合病院のご厚意で、八幡事業所も移転しますので、お知らせいたします。

【新住所】 〒807-0831

北九州市八幡西区大字則松二七五番地

済生会八幡総合病院附属棟一階



十二月二十三日から一月中は八幡事業所の電話が繋がりにません。また、移転に伴い、電話番号が変更になりますが、年末年始が重なることで決まっていなかったため、決まり次第、お知らせいたします。御用のある方は小倉事業所(093-647-3210)までご連絡ください。

皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

にドアを開けた時間でした。

正解は九時四十八分で、見事に一位を当てたのが小倉事業所のボランティアの芳井紀代美さんでした。

活魚茶屋さうお本店に着き、お楽しみの昼食会が始まりました。

美味しい料理に舌鼓を打ちながら、ボランティアさん同士交流を深めました。

9割の人が知らない

新絶景スポットを堪能

さうお本店には9割の人が知らない新絶景スポットがあります。

それは、どこでもドアやヤシの木ブランコ、絶景展望台などです。

食事後、ボランティアさん同士で写真撮影をしたり、海を散歩したりして楽しま

れていました。さうお本店を後にして、またいちの塩製塩所「工房とったん」に向かいました。

工房とったんでは、またいちの塩や塩をかけて食べ

るプリンを購入する方や、海を眺めながら、プリンを食べられる方もいました。

最後に、杉能舎(浜地酒造)に向かいました。

向かうバスの中、はずれなしのくじ引き大会を行いました。

十四時五十分に杉能舎に到着しました。

江戸時代から

気づき上げた酒蔵

杉能舎の酒造りの始まりは、江戸時代の糸島半島を統括する大庄屋を営んでいたところに遡ります。

余った年貢米で酒を醸し、客人へふるまっていたところに当蔵の酒造りのルーツがあります。

初代当主 浜地新九郎の《遊び心を忘れずに、酒造りに情熱を注ぐ》という教えを

信念に、時代が変わった現代でも常識にとらわれず、柔軟な発想を持ちながら酒

造りに

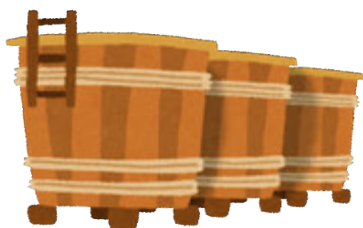
精進し

ており

ます。

十分

程度蔵



の中を

見学し、

甘酒な

どの試

飲を楽しみました。

個々にお酒が酒まんじゅうなど買い物を楽しみました。

八幡と小倉に無事に到着し、たくさんのお土産を抱えて、再来を約束して家路に帰りました。



自分らしく生きるために

12月3日から12月9日まで障害者週間

十二月二日（土）十時から、JR小倉駅で、障害者週間（十二月三日から九日）に合わせて「障害のある人への理解を深める啓発イベント」が行われました。「かわやか」から高原、貞谷が参加しました。

今年も、北九州市と北九州市障害福祉団体連絡協議会（以下障団連）主催の障害者週間街頭キャンペーンは、新型コロナウイルス感染症予防に留意しながらの開催のため、障団連の啓発部の活動として、福岡県福祉労働部障がい福祉課主催の農福連携促進事業のイベント「農福連携マルシェIN北九州」のブース内で、障害への関心と理解を深め、障害のある人が社会や文化などあらゆる分野の活動に参加することを推進するために啓発イベントを行いました。

今年も『自分らしく生き



啓発イベントの様子

第57回

ボランティア研修交流会

エピソード&スナップ集



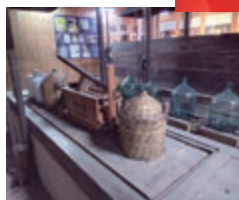
美味しく
いただきました！



ボランティアさん同士
交流を深めました！！



本当に
どこでもドアが
あればいいのに・・・



とろとろのプリンに
花塩とカラメルソースを
かけていただきました！



夕日の名所として名高い観光スポット

糸島市を代表する景勝地の一つ「桜井二見ヶ浦」は、三重県伊勢二見浦が「朝日の二見浦」と称せられるのに対し、「夕日の二見ヶ浦」として有名です。古くから桜井神社（国指定重要文化財）の社地として神聖な場所とされています。

農福連携マルシェとは

農業と福祉が連携する「農福連携」が全国的に注目されています。その目的は、障がいのある方が農業に携わることで農業従事者の減少や耕作放棄地の増加に歯止めをかけるとともに、障がいのある方の社会参加や就業機会の確保、収入の増加等につなげていくこととするものです。福岡県では、「農福連携」について、広く県民の皆さんに知っていただけるよう、「まごころ製品※」の中で、障がいのある方が生産に携わった農産物や農産加工品などを販売するマルシェを開催しています。



【写真提供（一部）】小倉事業所ボランティア

小津和 静香さん